

うさぎ組だより

この一年間で自我が芽生え、芽生えた自我がどんどん拡大していきましたね。うさぎ組では生活面、遊びの面で子どもたちが「わくわく・のびのび」思う存分やりたいことができるような環境を作れることを大切に過ごしてきました。子どもたちの成長した姿をお伝えさせていただきます。

食事

職員が配膳していると、「もういいかい？」と待ちきれない子どもたち。食事に期待を持ち、自分から意欲的に食べています。手づかみが中心だった食事でもスプーンやフォークを使って食べています。また、お友だちも食べているから「ほくも・わたしもたべてみよう」と野菜や初めて見る献立も食べる姿が見られるようになりました。



着脱

衣類の着脱は「じぶんで」と言って自分でできた時には「できたよ」と誇らしげな表情を見せてくれます。靴下や靴も自分の場所がわかり、出し入れしています。自分でやろうとする意欲を受け止め、一人ひとりに合わせて見守りながら、難しいところはさりげなく手伝って、褒めて励まし意欲につなげていきました。



排泄

膀胱の成長にも個人差があるので、排尿感覚が1時間半から2時間程開くようになってからトイレに誘います。遊びの合間を見て声をかけ、トイレでできた時は子ども自身にも目で見て確認してもらい、「おしっこでたね」と言葉を添えることで、膀胱の感覚と視覚の両方で確認ができるようにしています。まだ、膀胱の成長が不十分な状態で始めてしまうと、かえって排泄の自立がうまくいかないことがあります。これを繰り返すと膀胱がいっぱいにならないうちに出すことになり、十分尿がたまっていなくても反射的に出るようになっておしっこが漏れるようになってしまいます。子どもたちの生理的な成長を見極め、自立を待つことも大切です。